

# Q24 ODAは国民の多額の税金で賄われているわけですから、もっと説明や告知があってもよいのでは。

**A** 現在、政府サイドの各種情報の公開や国民の意見の収集に力を入れているところです。

## ホームページなどを活用した情報公開

ODAに対する国民の幅広い支持と理解を得るためには、ODAがどのように実施されているか、開発途上国の発展にどのように役立っているかを説明することは大変重要です。しかし、ODAの大半は、海外の途上国で実施されていることから、日本の国民が日常生活の中でODA実施の現場や様子を知る機会を得ることは、難しいのが現状です。

このような現状を踏まえ、外務省はホームページ、ODAメールマガジンの発信（原則月2回）などを通じて、プロジェクトの概要や援助が活用されている様子を紹介しています。



外務省のODAホームページ



## 様々なチャンネルで国民の意見を収集

国民の支持を得るためには、政府側からの一方的な情報提供だけでなく、国民の側からの意見をどのようにODA政策や事業に反映させていくかも重要になります。

ODAの意義や役割を理解してもらうために、1999年から開始された「ODA民間モニター制度」は、一般国民から公募したモニターが途上国を訪れ、国民の視点でODAプロジェクトの様子を直接体感するというもので、これまでに教師、医師、自営業、主婦、学生など、様々な職種や立場の人たちが現場を視察しました。その意見は報告書にまとめられ、ODAホームページ上に公開されるとともに貴重な意見として今後のODA改善に生かされます。

このほかODAタウン・ミーティングを全国各地で定期的で開催し、ODA改革に関する報告などを行うとともに、ODAについて一般国民との直接対話を行っています。



タイを訪問したODA民間モニター

# Q25 ODAについてもっと知りたい、参加したいという人も多いのでは、その場合どこで情報が得られますか。

**A** ODAホームページに加えて、国際協力プラザ(コーナー)などで得られます。

## 国民に開かれたコミュニティスペース

阪神・淡路大震災での体験などを契機として、日本でもボランティア活動が活発になってきています。ODAの分野でも、従来からNGOや青年海外協力隊、シニア海外ボランティアなどが国際協力を行っており、援助に対する国民の関心はますます高まってきています。

国内諸分野でのボランティアと異なり、開発途上国での国際協力は、その内容や実際の援助現場の様子が日本には伝わりにくく、一般の国民が耳や目にすることは困難でした。そこで1993年に「国際協力プラザ」を開設したほか、国内75カ所に「国際協力プラザコーナー」が設置されています。

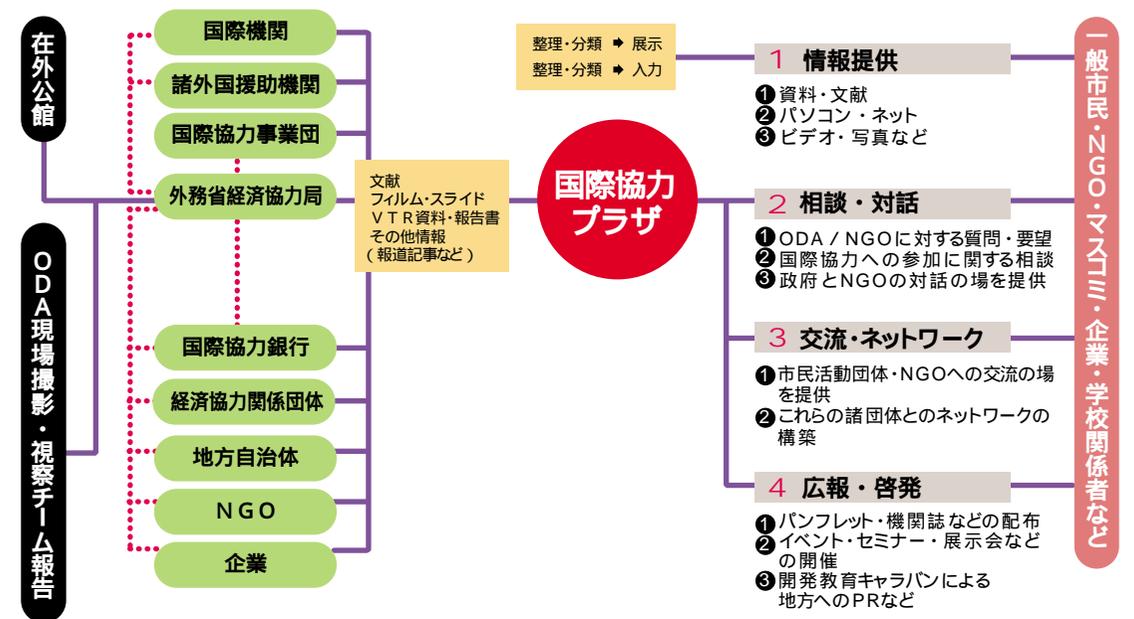
「国際協力プラザ」では、政府や援助実施機関が発



修学旅行で国際協力プラザを訪れた学生たち



## 「国際協力プラザ」の情報フローチャート





大勢の来場者でにぎわう国際協力フェスティバル2002の様子



「国際協力フェスティバル」が開催され、国際協力、途上国の実情や文化がテーマごとに展示・紹介されています。まさに、国際協力を楽しみながら学べるイベントといえるでしょう。

行っている刊行物がそろえられており、自由に見ることができます。ここでは、援助や開発に関するビデオなどの視聴覚教材、パソコンで検索できる関連図書、日本の援助プロジェクトの概要や報道記事、受注企業名リストなど、国際協力に関する豊富な情報を一覧することもできます。また、インターネットも自由に利用でき、相談コーナーでは、職員が国際協力に関するいろいろな質問に答えてくれるほか、機関や人物を紹介してくれる場合もあります。

一方、情報の収集だけではなく、情報の交換の場も用意されています。建物内にミーティングルームがあり、各種講演会やセミナーが開催されるほか、NGOや一般の人に対しても無料で貸し出しています。

このように、同プラザは国際協力に関する「見る、聞く、話す、調べる、学ぶ、考える」場を提供しており、すでに開館以来23万3,667人(2002年12月末)の入場者を数えています。

## 国際協力フェスティバル

10月6日の「国際協力の日」を中心に、国際協力に関する各種のイベントが国民参加のもとで開催されています。東京でも官民協力により「国際

### ODA、国際協力に関するホームページ

#### 外務省のODAホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/>

#### 国際協力事業団 (JICA)

<http://www.jica.go.jp/>

#### 国際協力銀行 (JBIC)

<http://www.jbic.go.jp/>

#### 国際協力プラザ

<http://www.apic.or.jp/plaza/>

# Q26 ODAのシンボルマークは何を表わしているのですか。また、どのような使われ方がされていますか。

A 日の丸と地球が互いに手を差し伸べたデザインで、ODAプロジェクト関連の資材やイベントなどに使用されています。



ODAシンボルマーク、左から英語、フランス語、スペイン語、アラビア語

このODAシンボルマークは、1995年9月に一般公募で決まったものです。デザインは左側に日の丸、右側に地球をイメージし、互いに手を差し伸べて躍動感を表現しています。

シンボルマークは、ODAプロジェクトに使用される資材や機器材、パンフレットや雑誌などの印刷物に使用されています。また、式典などにも利用されています。

以下に具体的な使用例を紹介します。

エジプトの「ギザ市ピラミッド南部地区上水道整備計画」では、完成した給水タンクにシンボルマークが大きく貼りつけられており、遠くからでも一目でわかります(2000年4月)。



「新セタティラート病院建設計画」では、ラオスの病院の近代化に向けて、治療技術の指導や、機材の供与が行われています(ラオス:2001年)。



草の根無償資金協力による「アッフェリー市ゴミ回収トラック供与計画」で、同市にゴミ回収トラックを贈与しました(コートジボワール:2001年)。

